



常葉小中学校・幼稚園学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

常葉小中学校・幼稚園の学校運営協議会(コミュニティ・スクール【以下CS】)1・2回目は文部科学省総合教育政策局CSマイスターの安齋宏之先生をお招きし、CSの理解を深めるための講演をしていただいたそうです。

【2回目の感想】CSについてよく分かりました。地域、家庭、教員が理解し合って子どもに関わっていければ、教員の負担も減るのだろうと感じました。限られた人が聞くのではなく、できる限り大勢の人が聞いてみんなで共有することで次につなげていく必要があると感じました。

今回は熟議の様子を参観させていただきました。学校運営協議会委員、幼小中教員、PTA、青少年健全育成市民会議など約40名という多くの参加者がいる熟議は初めてでした。

【趣旨説明】常葉小学校 榊原康夫校長

CSと地域学校協働活動の内容の役割の違いの整理と相互に一体として取り組んでいく大切さについて説明されていました。今後、対話を重ねることで信頼関係を築き、当事者意識を高めていきたい。そのために今回は多くの方から多くの意見をいただきたいと話されていました。

福島県では、CSと地域学校協働活動の一体的推進を進めています。



【熟議】6グループ

主テーマを「常葉地区の子どもたち どんな子どもを育てたいですか」と設定し3つの観点「①どんな子どもを育てたいですか」「②どんな学校(園)にしたいですか」「③どんな地域にしたいですか」について話し合いました。ファシリテーターが中心となりKJ法を用いて話し合うことで、全員が活発に意見を述べていました。

【話題】「失敗を恐れない人になって欲しい」「郡山の高校への進学意欲が欲しい」「楽しい学校」「地域人材をどのように生かせるのか」「地域移住者を増やすには」など

様々な話題が出ており、時には笑い声も聞こえる和やかな雰囲気でした。常葉地区のために真剣に考えて話している姿がありました。最後に各グループから話し合われたことを発表しました。

【本日の振り返り・講話】文部科学省総合教育政策局CSマイスター 安齋宏之 氏

対話を重ねることで信頼関係が築けます。「対話の時間×回数＝信頼」なので今回は60分×1回で60分の信頼関係ができました。信頼関係を築くことでCSが機能するようになってきます。こんな子ども、学校(園)、地域にしたいという様々な意見が出ましたが、実行するのはみんなです。いい目標からいい行動が生まれます。今日の意見を多くの人、多くの機会を通して絞っていくことが大切です。それが、みんなで作った感になり当事者意識を高めます。

【感想】学校運営協議会長 増田英子 氏

保護者、地域、学校が互いに連携して子どもたちのために取り組んでいきたいです。コロナ禍でなかなか協議が進まなかったが、持続可能な体制を構築していくチャンスだと思っています。どこまでできるか分かりませんが、がんばろうと思いました。